

広域化の概要

上尾市と伊奈町は、平成 30 年 6 月に「上尾市伊奈町ごみ処理広域化の推進に関する基本合意書」を締結し、両市町にとって長年の懸案であった「広域ごみ処理」について、新施設の整備・運営に向けて具体的に事業を進めることとなりました。

同合意に基づき、両市町は、それぞれのごみ処理施設である、上尾市西貝塚環境センター及び伊奈町クリーンセンターの後継施設の候補地選定を進め、令和 2 年 8 月に建設候補地を決定したところです。

●対象施設

上尾市西貝塚環境センターは稼働から 20 年以上、伊奈町クリーンセンターは稼働から 30 年以上経過して、老朽化が進んでおり、更新が必要となっております。なお、後継施設の稼働目標年度は令和 15 年度となります。

表 1 両市町のごみ処理施設の施設規模

➤ 焼却施設

	上尾市	伊奈町
名 称	西貝塚環境センター	伊奈町クリーンセンター
所 在 地	上尾市大字西貝塚 35 番地 1	伊奈町大字小針内宿 2005 番地
処 理 能 力	300 t / 日 (24h) (100 t / 日 × 3 基)	60 t / 日 (16h) (30 t / 日 × 2 基)
処 理 方 式	全連続燃焼式・ストーカ式焼却炉	准連続燃焼式・流動床式燃焼炉
稼 働 開 始	平成 10 年 3 月	平成元年 4 月 1 日

➤ 粗大ごみ処理施設

	上尾市	伊奈町
名 称	西貝塚環境センター	伊奈町クリーンセンター
所 在 地	上尾市大字西貝塚 35 番地 1	伊奈町大字小針内宿 2005 番地
処 理 能 力	70 t / 日 (5h)	25 t / 日 (5h)
稼 働 開 始	平成 10 年 3 月	平成 4 年 4 月 1 日

➤ リサイクル施設

	上尾市		伊奈町
名 称	西貝塚環境センター	ペットボトル結束施設	伊奈町クリーンセンター
処 理 対 象	空き缶	ペットボトル	ペットボトル
所 在 地	上尾市大字上野 907 番地 2	上尾市大字西貝塚 35 番地 1	伊奈町大字小針内宿 2005 番地
処 理 能 力	4.9 t / 日	2.5 t / 日 (5h)	2.5 t / 日 (5h)
稼 働 開 始	平成 8 年 9 月	平成 15 年 10 月	平成 4 年 4 月 1 日

●広域化のメリット及び懸念事項

ごみ処理を広域化することによって、次のようなメリット及び懸念事項があります。

表2 広域化のメリット

	メリット
減量化・資源化	市町が共同でごみ処理をすることに伴って、ごみの分別方法の統一などを行うことで効率的なマテリアルリサイクルを推進するとともに、焼却量の減量化を図ることができる。
経済	高度な処理が可能で小規模なごみ焼却施設等を個別に整備すると大規模な施設を建設するのに比べ、多額の費用が必要となることから、施設を集約化し、広域的に処理することにより、建設費や維持管理費を削減することができる。
環境	ごみ焼却施設を一定規模以上にするにより、焼却によって発生する熱を利用した発電等が効率的に行えるようになり、化石燃料等の消費を少なくすることができるため、CO ₂ の排出を抑制することができる。 また、ごみ焼却施設を集約化し、全連続炉（24 時間稼働）にすることにより、安定的な燃焼状態を維持できることに加え、ごみ処理技術を高度化できるため、ダイオキシン類の発生を抑制することができる。
技術	ごみ処理を集約化して全連続燃焼式の施設として整備することで、（全連続燃焼式、準連続燃焼式を単独で整備することと比べて）ごみ処理施設の安定稼働及び効率的な熱回収が可能となる。 また、二酸化炭素排出量を抑制した「高効率ごみ発電施設」にすることで、環境負荷の低減が期待できる。

表3 広域化の懸念事項

	懸念事項
減量化・資源化	ごみの分別方法が統一されていない場合、統一する必要があります。

●候補地選定の経緯

平成31年4月に策定した「候補地選定基準」に基づき、地図上から必要な敷地面積（6ヘクタール程度）を有する候補地の抽出（42箇所）と令和元年6月から8月に実施した候補地の公募（2箇所）により抽出しました。

これらの土地を、住民、有識者で構成する「評価基準検討会議」の建議を受けて策定した「候補地評価基準」により評価し、評価点第1位の伊奈町大字小室柴中荻区内を候補地に決定しました。

候補地評価基準：比較評価するための評価項目と配点を定めるもの。配点は6つの大項目100点満点とし、内訳としては以下のとおりです。

① 現況の土地利用・将来の開発計画で13項目	14点
② 自然環境・史跡・文化財で6項目	15点
③ 防災で6項目	17点
④ 生活環境・周辺条件で4項目	14点
⑤ 合意形成で4項目	20点
⑥ 経済性で5項目	20点

●候補地の概要

候補地は、原市沼川と県道さいたま菖蒲線に面しており、南側には、都市計画道路上尾伊奈線の整備が予定されています。



図1 建設候補地